

千葉県ケーブルテレビ杯 平成19年度千葉県少年サッカー選手権3年生大会  
戦 評

準決勝（A）

柏イーグルスTOR'82（W） 対 カナリーニョFC セレソン  
（1 - 0）

柏のチーム同士の戦いとなった準決勝。柏イーグルスボールのキックオフで試合が始まる。立ち上がりは激しい中盤でのボールの奪い合いが繰り返される。

カナリーニョFCは丁寧にボールをつないでくるのに対して、柏イーグルスはカナリーニョDFの裏にボールを放り込んでくる展開。ファーストチャンスを迎えたのは柏イーグルス。4分、右サイド7番柏木君からのセンタリングに10番間中君18番松本君が中に飛び込むが惜しくも届かず。

一進一退の攻防が続くが前線からのプレッシャーをかけるカナリーニョFCが少しずつ柏イーグルス陣内で攻撃を繰り返す。

しかし、一瞬の間をついて8分またもや柏イーグルスの右サイド7番柏木君のセンタリングをファーサイドで待っていた11番福田君がシュートを打つが芯を捉えることが出来ず。

両チームともボールに対してのプレッシャーが早く、なかなかフリーでボールを持つ場面を作させない。13分柏イーグルスの10番間中君が立て続けにシュートを打つがカナリーニョのDFが体を張ってゴールを阻止。

14分、おされ気味だったカナリーニョFCの10番大澤君のすばらしいボールキープから17番増田君へ絶妙のスルーパス。しかし17番増田君のシュートはゴールバーの上を越える。チャンスをお互いに作りながら前半15分を終わって0-0で勝負の行方は後半戦へと持ち込まれる。

後半戦の立ち上がりはカナリーニョFCが早い攻撃を仕掛けるが、シュートチャンスは作れず、逆に後半5分、柏イーグルスがファウルをもらい、7番柏木君の強烈なフリーキックをカナリーニョFCのDFがクリアする。

カナリーニョFCも17番増田君がスピードに乗ったドリブルで柏イーグルス陣内を崩すが柏イーグルスDFもマークの枚数を増やして阻止する。

そしてついに後半13分、均衡が破れる。柏イーグルス17番柏木君のフリーキックを一度はカナリーニョFCのDFがヘディングでクリアするが、こぼれ球を11番福田君がボレーシュート。このシュートがゴールに突き刺さる。この1点を守りきった柏イーグルスが柏同士の接線を制し、決勝進出を決めた。

（市川市サッカー協会 技術委員 小谷 春晃 記）

千葉県ケーブルテレビ杯 平成19年度千葉県少年サッカー選手権3年生大会  
戦 評

準決勝（B）

イーグルス 対 ウィングスSS千葉  
(1 - 1 PK 4 - 2)

前半はどちらかと言えば、ウィングスがボール支配で上回り、シュート数も多かったのだが、イーグルスはGK加藤君の活躍でゴールを守る。

前半14分、イーグルス6番MF村上君が右サイドを突破し、センターの7番FW阿部君にパス、これを阿部君が決めて、イーグルスが先制した。

後半は、ほぼ互角のゲーム展開。イーグルス6番MF村上君が、恵まれた体格を生かし起点となって攻撃。対するウィングスは、ドリブルでの突破力のある11番MF樋口君が仕掛ける展開。

後半8分、イーグルスDFが痛恨のクリアミス、これをウィングス11番MF樋口君が見逃さず、GKも抜いて無人のゴールにシュートして同点に。

このあと、お互い激しいボールの奪い合いあいとなるが、1-1のまま終了しPK戦となった。

PK戦では、ウィングス先蹴でスタート。1番手8番MF渡辺君のキックは、イーグルスGK加藤君の手をはじいてゴールイン。イーグルス1番手6番MF村上君のキックもゴール左につきささる。ウィングスは、2番手・3番手が、GK加藤君の好守備もあってキック失敗。イーグルスは全員が成功。ウィングス4番手の11番MF樋口君が決めて次につながるが、イーグルス4番手の9番FW山崎君が強烈なキックを決めて、4-2でイーグルスが決勝にすすむことになった。

(浦安市サッカー協会 技術部長 石井 敬 記)

千葉県ケーブルテレビ杯 平成19年度千葉県少年サッカー選手権3年生大会  
戦 評

決 勝

柏イーグルスTOR'82(W)対 イーグルス  
(1 - 0)

各学年大会上位で活躍する個々の技術を活かし、バランスのよいチーム柏イーグルスTOR'82W(以下TOR'82W)と小柄ながら出足鋭く粘りのチーム千葉イーグルスの対戦。小春日和の絶好のコンディションの中、TOR'82Wのキックオフで決勝戦がスタート。

前半風上から攻めるTOR'82W、立ち上がりやや固さが見え、全体が引き気味になった千葉イーグルス陣内でゲームを進行。開始4分最初のシュート、TOR'82W6番染谷君がミドルシュートを狙うが惜しくも右にはずれず。そんな中7分、一気にカウンターから千葉イーグルス7番阿部君がゴール前でフリーになり、決定的チャンスを掴むが柏DF必死のカバーに入りクリア。その後ワイドな攻めを意識して丁寧に攻め込むTOR'82Wに対し、カウンターのボールが中に集まりTOR'82WのDFの網にかかる場面が多く、チャンスがなかなか作れない千葉イーグルスだが、粘り強く守り抜き0-0のまま前半終了。

後半、前半とは逆に立ち上がりから動きが良かったのは千葉。19分こぼれ玉を9番山崎君がゴールやや右からシュート。TOR'82WのGK坂井君が反応よく手を出しポストに当たって得点ならず。立て続けに32番林田君のシュートも惜しくもバーを超え、カウンターから抜け出しての1対1のチャンスもペナルティーエリアを外にポジションを取り、タイミングよく飛び出したGK坂井君の足でクリアのファインプレーで無得点。

その後、ペースを戻して押し上げがよくなってきたTOR'82W、残り5分、7番柏木君のコーナーキックを交代で入ったばかりの19番皆川君が逆サイドからタイミング良くつめヘッドでリングでループシュート。これが見事に決まり待望の先取点。

残り時間が少ない中、ベンチも一丸となって声援を送る千葉イーグルス。ロスタイムに右から絶好の位置のFKのチャンス、視野の広いプレーをしていたキッカー6番村上君の強烈なシュートからヘッドリングも枠をはずれ万事休す。1-0でTOR'82Wが優勝となった。後半、千葉イーグルスが見せた両サイドのスペースを使った攻撃が早い時間帯で表現できれば違った展開になったように思われる。一方、TOR'82Wは安定した守備が最後まで崩れなかったことと、選手の多くが体をうまく使い相手から遠い足でドリブルをする等、ボールを大事にする意識が相手を上回り、TOR'82W勝因のゲームであった。

(千葉県サッカー協会4種 技術委員 小代 康明 記)